

本校の生活情報科家庭クラブの竹炭作りの様子が

7月21日(金)の矢作新報に掲載されました！



竹炭づくり

地元住民の協力で10年継続

愛知県立松平高校の生活情報科では10年近く、有志の「家庭クラブ」が校外活動で竹炭づくりを行ってきた。地域の指導者の高齢化で継続が危ぶまれたが、今年から九久平町の窯に場所を变えて新たに始めた。

地主の加藤猪三さん
竹炭づくりは、太さ8cm程の竹を50cmの長さに切り揃え、4つに割って窯の中に立てて並べ、火をつけ密封して不完全燃焼させるという工程。取

(76)は、「サラリーマンのころ放置した畑がいつの間にか竹林になっていった。伐採した竹の活用を考えた末、退職した仲間が集まって窯を始めたんです。若い人との交流にもなる」と楽しそうだ。高校生の指導はとくに窯に詳しい永淵勝喜さん(72)が行っている。

昨年までの窯は泥で造った一層式だったが、今年からはレンガ積みみの窯を泥で覆った二層式。少しでも空気が通ると竹が燃えてしまうため何度も改良したという。昨年も参加した2年生の田中恒太さん(17)は「今年

窯の奥で冷めてから、全体で10日〜2週間作業だ。文化祭や地域のイベントで販売。取り出すのは脱臭効果があるからだ。取り出した竹炭は高校へ運び、カット。リボン等を使ってラッピングし、脱臭剤として文化祭や地域イベントで販売する。売上金はラッピングペーパーなどの購入資金となる。今年からは服飾科の生徒も加わり、炭を入れる袋をミシンで縫うなどしてラッピングに力を入れるそうだ。

松平高校生活情報科

【地域記者・尾崎尚子】

Ginp

7
月
21

日

本校の生活情報

本校の生活情報科家庭クラブの竹炭づくりの様子が

7月21日の矢作新報に掲載されました。

報に掲載されました。

科家庭クラブの竹炭づくりの様子が

本校の竹炭づくりが
矢作新報に掲載されました！